

ご当地！ 授業アイデア 大公開

私たちの研究会を
ご紹介します！

横浜市 小学校算数教育 研究会



設立 1950年
 会員数 250名
 会場校 横浜市立川上北小学校
 開催日 毎月第一水曜日
 代表 横浜市立勝田小学校長 石澤 康史
 庶務 横浜市立箕輪小学校 横地 健一郎
 ke00-yokochi@city.yokohama.lg.jp
 Tel. 045-565-1150

当研究会の信条・目的

次の3つを重視し、
教師の授業力を高めます。

算数を創り上げる
教科固有の概念や性質の
理解を図ること

算数の学びを
創り出す
思考力・判断力・
表現力等の育成を
図ること

算数の
学びによって
生活や学習を
よりよくしようとする
態度の育成を
図ること

本研究会の年間の活動

- 総会及び役員による実践提案 (4月、5月)
- 会員による実践提案 (6月、7月、10月、11月、1月)
- 夏季セミナー (8月)
- 授業公開研 (12月、2月)
- 第2次研究大会 (3月)

研究主題・副題

数学的に考える資質・能力を育成する算数科学習
 ~子供が数学的な見方・考え方を働かせ続ける単元を目指して~

本研究会で実践提案に至るまでの具体例

1 研究テーマに沿った教材研究

- この単元を学習する価値は？
- この単元での既存の見方・考え方は？
- 見方・考え方が成長する単元デザインにするには？

2 提案の主張を明確化

- テーマを実現するための単元の主張は？
- 本単元で育成したい子どもの具体的姿とは？
- 授業改善の視点での提案の主張は？

3 指導案の立案と検討

- 提案者と研究会メンバーで検討

4 役員会での指導案検討

- 研究テーマに沿って、主張や単元デザインなどについて検討する。

5 指導案修正 (研究会メンバー)

- 研究会メンバーで検討

6 授業実践・提案資料の作成

- 見方・考え方が成長した場面(単元の中で数時間)を基に、成果や課題を明確にする。

7 研究会で実践提案 (横浜市算数研究会)

- 論点をもとに提案者の実践について協議する。



8 リフレクションの作成

- 提案の成果・課題を次年度以降に引き継ぐ

実践例

第2学年「2けたのひき算」

提案の主張

たし算でもひき算でも、計算の仕方やその仕組みを説明する活動の中で、
何に着目したかを明らかにすること

本単元での数学的な見方・考え方の分析

1年「たし算」「ひき算」	2年「たし算」「ひき算」	2年生「大きな数」
9+4 〈補数に着目〉 “10とあといくつになるように、 9+1+3で考えた”	35+12 〈位に着目〉 “30+10=40、5+2=7 位に注目してできるよ”	300+200 〈数の相対的な大きさに着目〉 “「100がいくつ」で考えたら 3+2と同じようにできる。”

児童がこの領域で、どのような見方・考え方を働かせてきたのか、そして今後どのように働かせるのか、
この分析が教材研究のキーとなります。

見方・考え方を働かせ続けるための単元デザイン

C: 筆算のやり方も、たし算と同じように
考えればできるもん

本時だけでなく、その前後でどのような
児童の姿を期待するかも検証します。

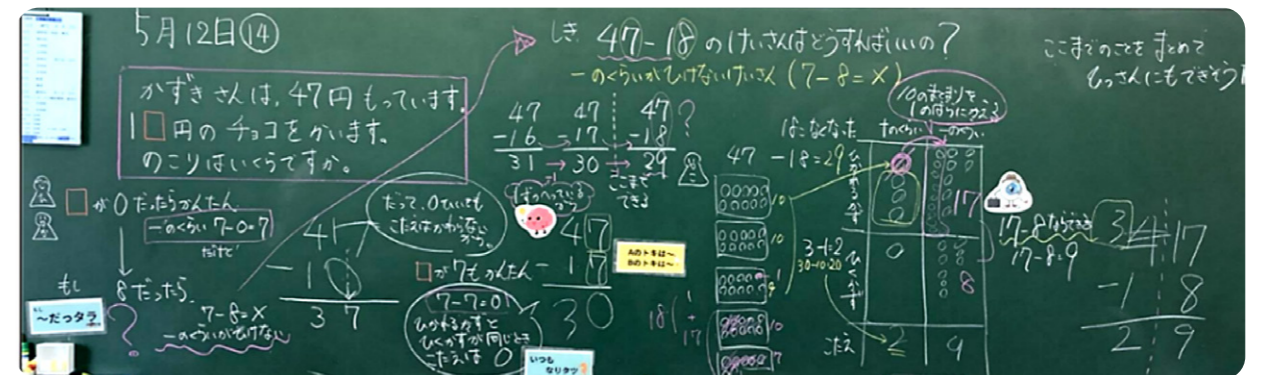
第2時

第6時

C: 2桁-2桁のときと、図も筆算の仕方も同じだ

授業実践を受けての協議会 実践(本時)

論点 | 単元を通して10のまとまりに着目できていたか。



協議会では「論点」を司会からきちんと示し、主張に対する意見をもとに進め、研究を深めます。

位取り板に○を書くことと◎を書くことを、
児童は同じと思っていたのか。

たし算のときから位に着目していくことで
もっと10に着目できたのでは。

本時では、位取り板に一つ一つ
書かなくてよいと気付いてほしい。